



平成30年度第2回 刈谷市国際化・多文化共生推進委員会
議事録

■ 日 時 : 平成31年3月15日(金) 10:00~11:40

■ 場 所 : 刈谷市国際プラザ201会議室

■ 出席者

団体名	役職等	氏名
愛知淑徳大学	名誉教授	榎田 勝利
国立大学法人 愛知教育大学	学生・国際課国際交流室長	三浦 秀樹
愛知県国際交流協会 交流共生課	課長	小山 豊三郎
刈谷市国際交流協会	常務理事兼事務局長	藤田 勝俊
一ツ木自治会代表		及川 啓太
株式会社豊田自動織機	人事部グローバル人事室 海外勤務グループ長	小林 美保
株式会社ベルテック	取締役専務	小池 ソニア
認定特定非営利活動法人 アジア車いす交流センター	事務局長	大河内 弘幸
市民委員		麻生 いづみ
刈谷市役所 市民活動部	部長	西村 日出幸

■ 欠席者

団体名	役職等	氏名
刈谷市教育委員会 学校教育課	指導係長	細川 圭子
市民委員		王 平

■ 事務局

所属	補職名	氏名
市民協働課	市民協働課長	加藤 雄三
市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	藤井 昭仁
市民協働課	協働推進係長	酒井 武士
市民協働課	主任主査	福田 倫
市民協働課	主事	加藤 祐騎
NPO 法人 NIED・国際理解教育センター	事務局長	川合 眞二

■ 配付資料

資料0 議事次第

資料1-1 重点協働プロジェクトの進捗状況について

資料1-2 国際理解（ESD）出前講座の活用に関するアンケート結果

資料2-1 重点協働プロジェクトの来年度計画について

資料2-2 愛知教育大学留学生向け公共連絡バス活用講座

資料3 刈谷市日本語支援団体連絡協議会開催概要

■ 議事録

1 開会

◇ 市民協働課長が開会を宣言した。

◇ 配付資料について確認した。

◇ 委員長が以下のとおりあいさつを行った。

- ・本年度2回目の委員会である。刈谷市では、国際化・多文化共生推進計画で3つの重点協働プロジェクトを推進している。前回の委員会で議論したこれらのプロジェクトの進捗状況について報告し、議論していただく。行政だけで計画推進はできないので、皆さんの力を貸していただきたい。
- ・政府が改正入管法を作り、外国人就労者を30万人以上増やすこととした。愛知県は外国人就労者が多く、それに伴い外国人児童・生徒も多くなっている。こうした地域の事情を踏まえながら、計画推進をしていければと考える。

2 議題

(1) 重点協働プロジェクトの進捗状況について

◇ 事務局が、資料1-1による資料に基づき、一部スライドを投影しながら、重点協働プロジェクトの進捗について説明を行った。共生の地域づくり発展プロジェクトについては、安城東高校の生徒が製作したワールドデン紹介ビデオを上映した。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

- ・委員長：説明に対して、質問や意見、感想などはあるか。「共生の地域づくり発展プロジェクト」についてはどうか。
- ・委員：安城東高校の放送部は、何でワールドデンを知ったか。その後のつながりはあるか。
- ・事務局：インターネットで調べて来た。月1回の合同作業にも取材以外で参加してもらっている。
- ・委員長：自主運営化についての状況はどうか。多額の補助金とは何か。外国人がゲストでの参加ではなく、一市民として参加していくようになるとういが、そのあたりはどうか。
- ・事務局：畑活動は自主運営できているが経理面、外国人の参加促進の面ではまだ課題がある。多

額の補助金とは、麒麟・地域のちから応援事業助成金の 28 万円である。通常の運営費 10 万円に対して多くの助成金をいただいている。継続的に参加しているフィリピン人がいるの、そこから広げていけるとよいと考えている。

- ・委員：具体的に物品をどのように購入しているか。ワールドデンは刈谷市の北部にあるが、他地域での展開は予定しているか。
- ・事務局：畑、花、広場の各チームのリーダーが必要な物品について提案してもらい、予算枠の範囲で購入している。刈谷市の他の地域でも、農作業には限らず外国人と交流できるような活動を広げたいと考えている。
- ・委員長：外国人にとって自分が当事者になるためには、自国の野菜や料理を作ったり、提供したりできるようになるとよい。
- ・事務局：過去には、そのような取り組みを行っているが、野菜を育てるのに時間がかかり、継続しない現状がある。
- ・委員：イベントで外国人が半分以上参加しているものと殆ど参加していないものがあるが、その要因として何があるか。
- ・事務局：クリスマスイベントでは外国人参加が少なかった。要因としては、クリスマスは自前で祝う傾向があるのではないかと考えている。
- ・委員：イベントごとでリーダーを決めて実施している。リーダーの考え方で外国人参加に対する重要度にばらつきがあるという側面もある。フィリピンの方がリーダーになって行ったイベントは外国人の参加が多かった。3月には防災イベントを企画していて、外国人にも関わる課題であるため参加を積極的に呼びかけている。イベントのリーダー間で同じ認識で実施できるようにしていきたい。
- ・委員長：外国人に、自分たちの国のイベント（クリスマス、春節など）を自分たちで実施してもらえそうな仕掛けがあるとよい。続いて「外国人市民の参画と共助プロジェクト」についてどうか。情報紙はいつ完成か。
- ・事務局：今年度中に完成を目指しており、1 ページ目はフィリピンコミュニティの活動紹介、2 ～ 3 ページ目は生活便利マップ、4 ページ目は日本で暮らすうえで知っておきたい情報を載せる予定である。
- ・委員長：ミーティングの開催日、参加者の職業等はどうなっているか。
- ・事務局：日曜日昼間に開催している。男性 2 名、女性 6 名。20 歳代から 50 歳代まで幅広いが、職業までは把握できていない。
- ・委員：参加メンバーは元々知り合いの人たちか。
- ・事務局：元々知り合いの人もいるし、このミーティングで知り合った人もいる。
- ・委員：フィリピンの人が特有に必要な情報はるか。
- ・事務局：ミーティングでは「自治会から得られた情報が良かった」、「言葉が分からないので情報が得られない」といった意見があった。これらは外国人全般に言えることで、フィリピンの方に特有なことは多くないと思われる。

- ・委員長：国際交流協会の方には情報提供の依頼はないか。市役所にはどんな情報を求めてくるか。
- ・委員：相談業務は市が行っているため、協会では対応していない。
- ・事務局：外国人相談員への相談は、行政制度に関するものが多い。情報紙にはそれとは違うものを伝えていけたらよいと考えている。
- ・委員長：「E S D推進プロジェクト」についてはどうか。
- ・委員：講座に参加した子ども達の反応はどうか。
- ・委員長：先生及び生徒に聞いたアンケートでは、「子ども達はとても楽しそうに参加していた」「今後社会に出て行くうえで自分なりの目標が持てた」というような感想があった。
- ・委員長：講師数とプログラムの内容が明確にわかるようになるとよいのではないか。
- ・事務局：実際に行った学校の反応はよいが、行ってもらうまでの理解がまだである。
- ・委員：子どもが小学校にいる間の1～6年生までに、この講座が体験できるような仕組みになっていくとよいと考える。
- ・事務局：現状は学校から応募があって単発で行っている。アンケートでは来年度も実施したいという意向の学校もあった。やり方次第で実施する学校は増えると考えている。
- ・委員：愛知教育大学には研修交換学生（教員）がいて、外国人講師にエントリーさせていただいている。小学校の児童からメッセージももらい感謝している。

◇ 事務局が、資料1－2に基づき、刈谷市内の小・中学校に行ったE S D推進メニューに関するアンケート結果について説明を行った。

- ・委員長：このアンケートには今後の実施にあたりヒントが多くあると思う。わかりやすいアピールの方法を考えるとよい。
- ・委員：学校側に、E S Dの大切さ重要さを理解してもらうことが一番大切である。
- ・事務局：今後は実施事例を参考にしながら、学校に対して具体的に伝えることができるので、活用していきたい。
- ・委員：チラシはどこに配付しているか。
- ・事務局：学校である。
- ・委員長：企業内でグローバルに活躍した社員が講師になれるか。帯同した配偶者はどうか。
- ・委員：業務がメインで海外に赴任しているので、ボランティア精神がある人がいるかどうか。現地で車の売り込み方を紹介した社員はいると聞いている。最近は単身で行くケースが増えている。

(2) 重点協働プロジェクトの来年度計画について

◇ 事務局が、資料2－1、資料2－2に基づき、来年度の重点協働プロジェクトの計画案について説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

- ・委員長：計画案について、ご意見、アドバイスなどはあるか。資料として、ESD推進メニューの資料を出してもらえるとよりわかりやすい。
- ・委員：フィリピン情報紙は、多言語翻訳をするか。
- ・事務局：フィリピン人向けの情報紙なので、タガログ語で発行する。
- ・委員：フィリピンコミュニティに関するイベントの詳細はどうか。対象や声かけはどうか。
- ・事務局：9月頃に実施予定である。団体のPRと情報紙の配付を行っていききたい。具体的にはこれから検討していく。
- ・委員長：ワールドデンは企業内のボランティアグループ、地域の企業団体（ロータリークラブ、青年会議所など）、農協などと連携できるとよい。
- ・委員：地域の中で自立した組織として運営するには、人材、財政面で不安はある。各種団体との連携も、知恵を出し合いながら行えればよい。

- ・委員：ESDという言葉を知りやすく伝えてもらえるとよい。
- ・委員長：わかりやすいキャッチフレーズがあるとよい。刈谷らしいものであるとよい。
- ・委員長：愛知県国際交流協会に來ているフィリピン人からの相談も、情報紙をつくるうえで参考にするとよいのではないか。
- ・委員：相談は多岐に渡っている。フィリピン人は当初は若い人からの相談が多かったが、子どもに関することや高齢者からの相談も多くなっている。愛知県国際交流協会では生活便利帳を多言語で発行している。厚すぎるので持ち歩けるようなものの必要を感じている。必要なデータがあれば提供したい。

(3) 日本語支援団体連絡協議会について

◇ 事務局が、資料3に基づき、日本語支援団体連絡協議会について説明を行った。

◇ 委員長の進行により、質疑応答、意見交換を以下のとおり行った。

- ・委員長：質問やご意見はあるか。スリーエスはNPOであるか。
- ・事務局：民間の任意団体である。
- ・委員：ボランティアに対する日本語教育講習は他にあるか。
- ・事務局：今年度は愛知県国際交流協会が刈谷市で講座を行ってもらっている。しかし、ボランティアが増えても、カバーする範囲が広がって、絶えずボランティアが不足している状況である。
- ・委員長：小池委員のところは、外国人社員の日本語教育はどのようにしているか。
- ・委員：会社が負担して、民間の日本語学校で学んでもらっている。
- ・委員長：刈谷市国際交流協会で困っていることはあるか。
- ・委員：全盲の方をテスト的に受け入れて行っているが、ボランティアの人が障害者に対応した日

本語学習のスキルがないため困っている。今後は、あらゆる世代、あらゆる状況を持った外国人に対応していくことが求められる。

- ・委員長：英文点字を行っている人がいるので、つながるとよい。外国人を雇用する企業にもこの連絡会に入ってもらえるとよい。
- ・委員：先ほど事務局からも報告があったとおり、刈谷市内でボランティア入門講座を開催した。愛知県としても市町村とともに日本語ボランティアを増やす取り組みを行っている。以前は希望する市町村は少なかったが、来年度は応募者多数であった。大人向けの日本語教育だけでなく、子ども向けの日本語教育も必要なので、この連絡会に教育委員会にも入ってもらえるとよい。

3 その他

◇ 委員長が、全体を通しての意見を募った。

- ・委員：ワールドデンに関わっていて、どうしたらもっと参加者が増えるかを考えている。イベントは大事で、ブラジルにはカントリー祭りがある。
- ・委員：イベントに人を集めるためのアナウンスが大切だと思った。
- ・委員：地域に外国人が多くいるので、そうした方に参加してもらい、その後の主体的な活動につながっていけるとよい。
- ・委員：愛知県に外国人が増えるトレンドにある。翻訳機によるコミュニケーション、やさしい日本語の導入について検討したい。赤ちゃんから高齢者まで外国人は幅広くなったので、外国人ではなく地域の人として考える必要がある。刈谷市国際交流協会であるが、交流だけでなく共生が必要な時期である。
- ・委員：愛知県国際交流協会は、市町村とともに取り組みを進めたいと考えているので、今後ともよろしく願いしたい。
- ・委員：地域資源の活用、地域の国際化・多文化共生について考えていきたい。来年度の冒頭に委員会の規程を共有してほしい。
- ・委員：タイ、インドネシア、中国で車いすを配っているNPOであり、関連することがあれば協力したい。
- ・委員：情報紙の作成が、フィリピンから始まり、中国、ブラジルと広がっていく話しについて、フィリピンの人だけの情報紙ではなく、他の国籍の人とも共有することも大切で、そのことで交流も進むのではないか。
- ・委員：多文化共生は、すべての自治体の課題でもあるので、連携しながらスピーディーに対応していくことが大切である。
- ・委員長：多文化共生とは、異文化に出会うことにワクワクするものであるとよい。そのために3つの方法がある。①場づくり、②パイプづくり（ネットワーク）、③人づくりである。ここを押さえながら、これからのプロジェクトを推進することが大切である。また、外国人

の視点にたつてプロジェクトを考えることが大切である。

◇ 来年度は10月と3月を予定している。

◇ 委員長が、閉会を宣言して終了した。